

新聞を身近に感じよう ～ 新聞の楽しさを見つけながら進める学習 ～

指定校 2 年次 長野市立三陽中学校 増尾知之 高橋武夫

(1) 本年度の N I E 活動の概要

本校では、学校教育目標『心豊かに たくましく生き抜く生徒』のもと、「自ら問いを立て、方法を考え、仲間と協働し、新たな価値を作り出す生徒」を育てることを目標として【探究学習】に取り組んでいる。

NIE 指定校 2 年次を迎えた本年度は、昨年度に引き続き、「新聞を身近に感じよう」を目標とし、新聞の楽しさを見つけながら進める学習に取り組んできた。

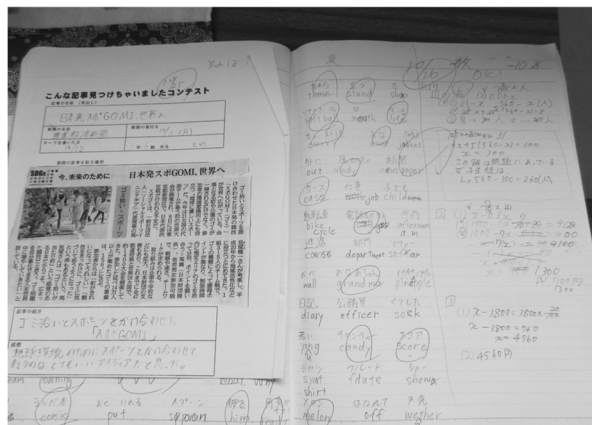
昨年度に引き続き「新聞閲覧コーナー」を設置すると共に、国語科の授業や自学自習ノートで、「気になる記事のスクラップ」を作った。社会科では新聞データベースからの記事を使っての授業を行った。

新たな取り組みとしては、信濃毎日新聞社読者センターから 2 回に渡って記者を招き、「新聞の見方」「新聞記事の書き方」の指導をいただき、1 回目は生徒会活動での「学級新聞作り」を、2 回目は 2 学年の「職場体験新聞作り」を学んだ。

また、2 学年では短学活の時間に「NIE タイム」に取り組み、毎日の当番が注目記事を見つけ発表した。そのため新聞閲覧コーナーでは、2 年生を中心に多くの生徒の利用があり、新聞への関心が日常的に感じられるようになった。そして、幅広い教科での新聞利用を画策し、本年度の研究授業は「理科」で行った。



(新聞閲覧コーナー)



(自学自習ノートに貼られた記事)

(2) 本年度の N I E 活動をはじめる前の状況

本校は全校生徒 561 名、22 学級（内特別支援学級 6）の大規模校であり、生徒は一人一台の端末を授業で使っている。授業では調べ学習や意見や学習成果の情報交換ツールとして利用していることが多い。昨年度からの NIE の成果で、国語科や社会科において新聞や新聞データベースを利用する場面は増えてきている。家庭での新聞購読率はおよそ 6 割程度だが、「新聞を読む習慣」のある生徒は 1 年目はほとんどいなかった。しかし、1 年間の NIE 学習により、今年は 4 割程度に増えてきた。学校の「新聞閲覧コーナー」を利用したことのある生徒は 2 年生では全員、1・3 年生でも 5 割程度いる。

（３）N I E 活動の狙い（育てたい力）

１年目の活動を通して、新聞に取り上げられている多様な情報に興味や関心をもち、家庭でも学校でも新聞に目を通す生徒を増やすことができた。２年目の本年度は、新聞に書かれている記事や情報、細かくは写真や数値・グラフ読み込み、教科書や授業で学んだことが、地域や自分の現在や将来の生活に結びつけて読み取り、自分の考えをまとめ、会話や日記などに発信できる生徒の育成を目指す。

（４）公開授業以外のN I E の取り組みの状況

①【新聞閲覧コーナー】

図書館の入り口に長机を用意し、新聞を自由に閲覧したり、切り抜いて持ち帰ることができたりするようにした。閲覧者は増え、毎日来ては株価や連載記事などを見ていく生徒が現れた。

②【NIE タイム】

２学年では短学活の時間に「NIE タイム」に取り組んだ。

朝夕の学活の時間を利用して、当番が自己の作成した新聞スクラップの記事の内容を要約したことや、感想を伝えるもので、活字に親しみながら読む力や書く力を育てる活動、全国大会で紹介された取り組みを学年全体で取り入れた。地元のニュース・スポーツ・政治・株価などの記事を読む姿に新聞への親しみがわいたことを感じた。

③【生徒会「学級新聞」作り】に向けての【講師派遣】

生徒会の時間に、信濃毎日新聞社読者センターから記者を招き、「新聞の見方」「新聞記事の書き方」の指導をいただき、「見出し」や「写真」「リード文」「本文」の書き方、読み方を学んだ。生徒会では、会誌編集委員会が講師の先生の指導をいただいたあと、文化祭に向けて、神戸新聞の「ことまど」を利用して学級新聞を作成し、文化祭に向けて展示発表をした。文化祭後も、同様に「ことまど」を利用して学級新聞を作成している。

（１年生の学級新聞「ことまど」使用）



④【２年「職場体験新聞」作り・・・総合的な学習の時間】にむけての【講師派遣】

２学年では、生徒会と同じく信濃毎日新聞社読者センターから記者を招き、「新聞の見方」「新聞記事の書き方」の指導をいただき、「見出し」や「写真」「リード文」「本文」の書き方、読み方を学んだ。生徒会と同じように教えていただいた新聞の作り方を参考に、職場体験新聞を作成し文化祭に発表した。なお、作成過程で国語科では以下の場面を設け、「新聞作り」の場面での他の生徒との情報共有の仕方について研究授業を行った。

⑤【２年国語科授業 「職場体験新聞の構成の場面」でのクロームブックを使った授業】

国語科では、総合的な学習の時間に作った「職場体験新聞」を新聞の作り方の指導を受けた観点から、生徒たちがお互いの新聞に、クロームブック上で、伝えたいことが伝わりやすいか、

見やすいか、記事の内容は5W1Hがわかりやすいかなど、意見や感想を交換しながら作品を校正する研究授業を行った。



(信濃毎日新聞社の記者による講座)

(5) 公開授業などの活動内容

第2学年 理科学習指導案

①単元の指導計画(9時間扱い)

※ 評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

○指導に生かす評価 ◎指導に生かすとともに総括としても生かす評価

時	学習活動	評価規準	評価の観点			評価方法
			①	②	③	
1 3 本 時	過去の長野県の気象災害の事例から、災害を引き起こした気象現象はどのようにして発生したのかに疑問を持ち、新聞データベース記事からその原因を気象要素に着目して追究して調べ、発表を行う。 各グループの発表を聞いて日本の気象についてまだまだ知らないことがあることに気づき、単元を通して解決したい学習問題を立てる。	長野県で起きた気象災害に興味をもち、災害を引き起こした気象現象はどのようにして発生したのか調べ学習を行い、気象要素に着目して考察し、発表することが出来ている。 様々な気象現象による被害が日本の気候によって起きると気づき、単元を通して明らかにしたい疑問を立て、日本の気象の特徴について見通しをもって主体的に追究しようとしている。		○	◎	発表原稿資料 学習カード
4 6	前時で立てた課題を解決するために、教科書、新聞記事、クローブブック等を用いて調べ学習を行い、日本の気象についてまとめ、理解を深める。	天気図や気象衛星画像などの資料をもとに、自ら立てた課題を解決するために必要な情報を調べ、まとめることができています。			◎	学習カード

7	単元内自由進度学習で調べた内容を共有し、日本の気象についてまとめ、理解を深める。	日本の気象について自分なりにまとめることができ、理解を深めている。	◎	○		学習カード
8	数日間の天気図などから天気の変化を読み取り、科学的な推論に基づき翌日の天気を予想する。	天気の変化の予測について、目的意識をもって話し合い、科学的な根拠に基づいて自分の予想を立てることが出来る。		○	◎	学習カード
9	単元を貫く学習問題を振り返り、日本の天候と気象現象がもたらす災害とめぐみについて理解を深める。	単元を貫く学習問題に対する答えを見出し、気象現象によっておこる災害とめぐみについてまとめ、理解を深める。		◎	○	学習カード レポート

② 本時の展開 （本時の位置：9 時間中の第 3 時）

ア 授 業 者：増尾 知之

イ 単 元 名：単元 3 「天気とその変化」第 3 章 天気の動きと日本の天気

ウ 授業学級：2 年 2 組

エ 本時の主眼

これまで気象要素や雲のでき方を学習し、長野県には気象によるいろいろな被害があることを知った生徒が、災害を引き起こした気象現象はどのようにして発生したのかを考える場面で、新聞記事の記述から要因を探したり分析したりすることで、日本の気象についてまだまだ知らないことがあることに気づき、単元を通して明らかにしたい疑問を立て、日本の気象の特徴について見通しをもって主体的に追究しようとしている。

オ 本時の位置

前時：過去の長野県の気象災害の事例から、なぜそのような被害が起きたのか新聞記事を用いて調べ学習を行い、気象要素に着目してその原因を考察し、発表原稿を作成する。

次時：地球規模での大気の動きと天気の変化を学習する。

カ 指導上の留意点

- ・調べ学習を行う際、被害にばかり目を向けるのではなく、気象要素に着目し科学的な視点をもって考えることを促す。
- ・状況に応じ、前後数日間の新聞記事や、天気図を扱うように促し、新聞記事を用いることのメリットを活かす。
- ・時期ごとの気象の特徴を一元化するために、発表原稿を事前に紙に印刷しておき、模造紙で作成した気象カレンダーに掲示することで視覚支援を行う。

キ 本時の展開（全9時間中第3時）

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・支援 評価	時間	備考
導入	1 調べ学習の続き及び発表準備を行う。 【班】	学習問題 災害を引き起こした気象状況はどのようにして発生したのだろうか？ ○災害を引き起こした気象現象はどのようにして発生したのか、新聞記事から分かるかな。	◇前時で用いた導入資料を用いて本時の学習活動を確認する。	5	・信濃毎日新聞のデータベースから過去の新聞記事を用いる。 【きずな】他者の発表を聞き、自分には無い視点で考えを深める姿。
	2 各グループの発表を行う。 【班→全体】	学習課題 新聞記事やクロームブックで調べた原因を発表しよう。 ○土砂災害が多いのは線状降水帯が停滞することが原因なのかもしれないな。 ○大雨が生じると、洪水の被害が大きくなりそうだね。 ○長野県は気象災害による被害が少ないと思っていたけど、大きな被害に繋がることもあるんだな。 ○時期によって災害が起きる気象の原因には違いがありそうだな。	◇スライド資料をテレビに投影することで、資料を見やすくする。 ◇生徒の手元でも見えるように、発表データの共有をする。 ◇季節ごとの気象による被害が起きた気象現象の特徴が分かるように、発表資料を紙に印刷しておき、模造紙を用いて年間の事象を一元化する。	15	
展開	3 発表を聞いて疑問に思ったことや調べてみたいことを整理し、全体で共有する。 【個人→全体】	○梅雨前線ってどんな時にできるんだろう。 ○なんで季節によって気象に違いが見られるのだろうか。 ○発表に線状降水帯が原因とあったけど、そもそも線状降水帯ってなんだろう。 ○確かに、カレンダーに着目すると季節ごと気象に違いがあるな。なぜだろう。 ○なるほど、自分が調べた気象現象については分かったつもりだったけど、まだ知らないことがあるな。	◇気象に着目して疑問を立てることができるように、気象用語の問い返しをする。 ◇疑問が持てない生徒には、机間指導で個別に発問し、これまでの授業で疑問に思ったことや分からないことを文章化するように促す。 ◇発言や疑問を板書し、必要に応じてカレンダーとリンクさせることで季節による変化を考える手立てとする。	15	【きずな】他者の発表を聞き、自分には無い視点で考えを深める姿。
	4 単元を通して解決したい学習問題を立てる。【全体】	○日本の気象にはどんな特徴があるのかな。 ○日本の気象についてもっと知りたいな。	◇生徒の疑問を板書に集約し、意見を拾うことで単元を貫く学習問題を立てる。	5	
終末	単元を貫く学習問題 日本の気象にはどのような特徴があるのだろうか。				
	5 個人で追究し、解決したい課題を確認し、学習の計画を立てる。 【個人】	○僕は四季ごとの気象の特徴を詳しく知りたいな。 ○私は、日本でこんなにも台風が起こる原因を知りたいな。まずは台風について1時間しっかり調べてみよう。 ○冬型の気圧配置とか、まだ知らない単語があるな。まずはいろんな単語を調べることに時間を使ってみよう。	様々な気象現象による被害が日本の気象によって気づき、単元を通して明らかにしたい疑問を立て、日本の気象の特徴について見通しを持って主体的に追究しようとしている。	5	【みらい】単元を通して解決したい学習問題を立てる姿。
	6 本時の学習を振り返る。 【個人】	○他のグループの発表に知らなかったことがあって面白かった。 ○今日立てた課題を解決出来るように次回からも頑張りたいな。	◇Padletを用いて、本時で気づいたこと、もっと追究したいことを振り返り、記入する。	5	

ク 生徒の反応【単元終了後の感想】

- ・「新聞を使った学習は、地元に着した情報が教科書に書かれていることと結びつき、身近体験としての『気象』の知識を学ぶことができた」
- ・「自分たちの疑問を調べて行くうちに、実際の出来事と重ねながら理解することができたので、わかりやすかった。そして興味がわいた。気象に関わる出来事ばかりではなく、身近な出来事と授業で学習したことがつながる新聞を使っの学習は楽しかった」



(公開授業)

(6) 1年間取り組んだ成果と課題

京都で行われた NIE 全国大会に参加したことが刺激となった。公開授業を参観し、原子力発電に対する興味から、夏休み中に自主的に北陸地方を訪ねたり、大学での公開講座に参加したりするなど、教師として、人間としての生き方に刺激を受けることになった。

NIE の研究授業という、となく国語科や社会科が多いのだが、他教科でも新聞を使って身近な話題の学習に取り組むことができることを伝えたいと思い、今年は「理科」の「気象」の学習において新聞記事を利用した学習に取り組んだ。

その結果、新聞にはたくさんの情報があり、日頃、課題を持って新聞を読むことやデータベースでの検索の仕方次第で、長野県の気象について詳しい知識や情報を手に入れることができることがわかった。生徒も意欲的に科学的事象の解決に取り組むことができた。その結果「理科」でも新聞の利点を生かし、探究的な学びが深まっていくことを実感した。

新聞は決して大人だけのものではなく、中学生の日々の日常と、教科書で学んだことをつなぎ、知識や情報を得るばかりではなく、「考える」きっかけをも与えてくれるものだと、生徒達の姿に学んだ。

(増尾)